

平成20年度第2回

高等学校入学者選抜審議会
開催要項

宮城県教育委員会

- 1 日 時 平成20年11月20日(木) 午後2時から午後4時まで
- 2 会 場 県庁9階 第1会議室
- 3 次 第
 - (1) 開 会
 - (2) あいさつ 教育委員会教育長
 - (3) 報告・審議
 - イ 報 告
 - ① 平成21年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
 - ② 平成22年度全県一学区移行に向けた対応について
 - ロ 審 議
 - ① 平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について
 - ② 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について
 - ・現行公立高校入試制度に関する調査の結果について
 - ・小委員会におけるこれまでの検討経過について
 - ・「中間まとめ」骨子(案)について
 - (4) 答 申
 - 宮城県立高等学校入学者選抜について
 - ・平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について
 - (5) そ の 他
 - (6) 閉 会

平成20年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 名簿

(審議会委員)

No.	委嘱・任命	氏名	現職	備考
1	委嘱	大桃 敏行	東北大学大学院教育学研究科教授	
2	委嘱	菅野 仁	宮城教育大学教育学部教授	
3	委嘱	西野美佐子	東北福祉大学総合福祉学研究科教授	
4	委嘱	伊藤 吉里	(社)宮城県経営者協会事務局長	
5	委嘱	懈良 武	宮城県高等学校PTA連合会副会長	欠席
6	委嘱	小平 英俊	宮城県PTA連合会副会長	
7	委嘱	伊藤 宣子	聖ウルスラ学院英智高等学校長	
8	委嘱	半澤富美雄	大河原町立大河原中学校長	
9	委嘱	鹿野 良子	仙台市立加茂中学校長	
10	委嘱	高橋 弘二	宮城教育大学附属中学校副校長	
11	委嘱	堀籠 美子	大和町教育委員会教育長	
12	委嘱	庄子 修	仙台市教育局学校教育課教育指導課長	
13	任命	庄司 恒一	宮城県仙台第二高等学校長	
14	任命	齋藤 公子	宮城県石巻西高等学校長	
15	任命	小野寺千穂子	宮城県迫桜高等学校長	
16	任命	鈴木 信也	宮城県教育研修センター所長	

(教育庁)

教育委員会	教育長	小林 伸一
	教育次長	菅原 通悦
教育企画室	室長	安住 順一
	教育改革班室長補佐兼企画員	目黒 洋
教職員課	県立学校人事班課長補佐	加藤 順一
義務教育課	課長	竹田 幸正
	指導班副参事	本明 陽一
高校教育課	課長	高橋 仁
	副参事兼課長補佐	村上 靖
	教育指導班課長補佐	高橋 義典
	教育指導班主幹	齋藤 順子
	〃 主幹	河本 和文
	〃 主幹	岡 邦広
	〃 主幹	岡 達三
	〃 主幹	伊藤 俊

平成20年度
第2回高等学校入学者選抜審議会資料
平成20年11月20日（木）14:00～16:00
県庁9階 第1会議室

目 次

I 高等学校入学者選抜審議会条例	P 1
II 報告関係資料	
1 平成21年度宮城県公立高等学校入学者選抜要項に係る主な変更点等	P 2
2 平成22年度宮城県立高等学校通学区域の全県一学区に向けた対応	P 4
III 審議関係資料	
1 平成20年度第1回高等学校入学者選抜審議会における審議の要点 （選抜方針、選抜日程関係部分抜粋）	P 6
2 平成12年度～平成21年度高等学校入学者選抜日程の推移及び 平成22年度日程案	P 8
3 平成20～22年度高等学校入学者選抜事務日程	P 9
4 平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）	P 10
5 平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜日程（案）	P 11
6 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会におけるこれまでの 検討経過について	P 12
7 「中間まとめ」の骨子（案）	P 15
8 「高校教育に関する県民意識調査」について	P 18
※ 別添資料	
1 開催要項及び出席者名簿	
2 別冊資料 現行公立高校入試制度に関する調査の結果について	
3 平成21年度宮城県公立高等学校入学者選抜要項	

I 高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 昭和47年10月条例第27号

第一条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会(以下「審議会」という。)を置く。

第二条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第三条 委員及び専門委員は、学校の教職員、教育研修所の職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第四条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第五条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第六条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第七条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかって定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和47年10月11日条例第27号抄)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

■推薦入試

2 出願資格 (1) ア	p.8	(7) 連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携中学校」という。）から <u>連携型中高一貫教育を実施する高等学校</u> （以下「連携高等学校」という。）に志願する者。
4 出願手続	p.10	仙台市は <u>銀行納付</u> (注意) <u>県立高等学校志願者にあつては、収入証紙に消印しないこと。</u> <u>また、仙台市立高等学校志願者にあつては、納入通知書兼領収書を願書裏面に貼付すること。</u>
8 面接・実技・作文等 (2) オ	p.12	やむを得ない理由により面接・実技・作文等を分校において実施する高等学校にあつては、その旨を <u>11月14日(金)</u> までに県教育長に申請し、承認を受ける。

■一般入試

3 出願できる高等学校、課程及び学科・コース (2) ク	p.14	<u>東松島高等学校のⅠ部、Ⅱ部、Ⅲ部のいずれかに出願する場合は、他の二つの部のうち一つを第2志望とすることができる。</u>
5 出願者等の報告 (1)	p.16	<u>2月23日(月)午後3時</u> (出願期間の1日減により時間を午前11時から午後3時に)
5 出願者等の報告 (2) 地区処理委員会委員長の報告要領についてア	p.16	報告日時 <u>2月23日(月)午後3時～午後4時</u>
7 学力検査 (3) エ	p.17	やむを得ない理由により学力検査を分校において実施する高等学校にあつては、その旨を <u>11月14日(金)</u> までに県教育長に申請し、承認を受ける。

■通信制課程

5 出願期間	p.32	<u>2月16日(月)から3月13日(金)午前11時までとする。</u>
--------	------	--------------------------------------

■諸様式

配慮申請書(様式P) <注> 3 (4)	p.51	<u>「配慮の希望事項」の欄は、受検上の配慮に関する記入欄であり、選抜に関する配慮等については、記入しないこと。</u>
一般入試願書	p.53	日付けの部分に <u>平成21年</u> を印刷
	p.54	10 (2) 定時制課程 <u>イ 東松島高等学校のⅠ部、Ⅱ部、Ⅲ部のいずれかに出願する場合は、他の二つの部のうち一つを第2志望とするとき。</u>

■県境隣接協定

岩手県との協定 別表 宮城県側	p. 61	気仙沼市、本吉郡本吉町から志願できる県立高等学校 千厩高等学校(普通科を除く) 高田高等学校 <u>大船渡東高等学校</u>
別表 岩手県側	p. 61	<u>岩ヶ崎高等学校(普通科)</u>
別表 欄外	p. 61	(注) 別表中の市町村名は、平成20年8月1日現在のものである。別表中、 <u>岩ヶ崎高等学校は平成21年4月1日鶯沢工業高等学校と再編統合し、岩ヶ崎高等学校となる予定である。</u>

(2)平成22年度入試に向けた平成21年度の対応予定

時期	内容
7月上旬	募集定員公表
7月中旬	「平成21年度 宮城の公立高校ガイドブック」高校教育課HPアップ 「平成21年度オープンキャンパス(学校説明会)一覧」高校教育課HPアップ 「公立高校ガイド」各高等学校HPアップ
7月～11月	オープンキャンパス(学校説明会) 各高等学校ごと実施
7月上旬 ～9月上旬	平成21年度公立高等学校合同相談会
10月下旬	入試事務説明会(中学校・高等学校対象)

※11月以降については予備調査の複数回実施も含め具体の事務日程等を検討中

ことはできないか。

- ・ 一般入試を1週間遅らせることは、合格発表や第2次募集との関係からみて高校側にとっては難しい。 その一方で、これ以上日程が早まることも厳しい。
- ・ 公立高校の合格発表後に私立の最終手続きがある。公立高校の合格発表が遅れることは、私学の新学年準備にも大きく影響する。
- ・ 過去には金曜日に入試を実施したこともあり、1日でも後ろにずらせないか。
- ・ 金曜入試を実施した経験からみて、採点業務や秘密保持等問題が多く、高校側としては事務局案の方が望ましい。

(委員長) ○選抜方針について

- ・ 全県一学区になることに伴う変更のみとし、それ以外は平成21年度までと同じということによいか。(全員了解)

○日程について

- ・ 中学校の授業時間の確保は大きな課題であるが、その一方で、全県一学区となることや高校側の対応の問題、土日ははさむことの課題もある。引き続き次回、この日程について検討し11月に決定したいと思うがそれでよろしいか。(全員了解)

3 平成20～22年度高等学校入学者選抜事務日程

平成22年度 入学者選抜 (案)

平成21年度 入学者選抜

平成20年度 入学者選抜

日	曜	事	日	曜	事	日	曜	事
1/1	金		1/1	木		1/1	水	
2	土		2	金		2	木	
3	日		3	土		3	金	
4	月		4	日		4	土	
5	火		5	月		5	日	
6	水		6	火		6	月	
7	木		7	水		7	日	
8	金		8	木		8	土	
9	土		9	金		9	日	
10	日		10	土		10	月	
11	月	(成人の日)	11	日		11	火	
12	火		12	月	(成人の日)	12	水	
13	水		13	日		13	木	
14	木		14	月		14	金	(成人の日)
15	金		15	火	▽	15	土	▽
16	土		16	水	▽	16	日	▽
17	日		17	木	▽	17	月	▽
18	月		18	金	▽	18	火	▽
19	火		19	土	▽	19	水	▽
20	水		20	日	▽	20	木	▽
21	木		21	月	▽	21	火	▽
22	金		22	火	▽	22	水	▽
23	土		23	水	▽	23	木	▽
24	日		24	木	▽	24	金	▽
25	月		25	金	▽	25	土	▽
26	火		26	土	▽	26	日	▽
27	水		27	日	▽	27	月	▽
28	木		28	月	▽	28	火	▽
29	金	推薦入試の面接等	29	火	▽	29	水	▽
30	土		30	水	▽	30	木	▽
31	日		31	木	▽	31	金	▽
2/1	月		2/1	金	私立高校A日程入試▽	2/1	金	私立高校A日程入試▽
2	火		2	土	私立高校A日程入試▽	2	土	私立高校A日程入試▽
3	水		3	日	私立高校B日程入試▽	3	日	私立高校B日程入試▽
4	木	推薦結果通知(午後4時)	4	月	私立高校B日程入試▽	4	月	私立高校B日程入試▽
5	金		5	火	推薦結果通知(午後4時)▽	5	火	推薦結果通知(午後4時)▽
6	土		6	水		6	水	
7	日		7	木		7	木	
8	月		8	金		8	金	
9	火		9	土		9	土	
10	水		10	日		10	日	
11	木	(建国記念日)	11	月	(建国記念日)	11	月	(建国記念日)
12	金		12	火		12	火	
13	土		13	水	推薦合格者数等報告△	13	水	推薦合格者数等報告△
14	日		14	木		14	木	
15	月		15	金		15	金	
16	火		16	土	一般入試出願▽	16	土	一般入試出願▽
17	水		17	日		17	日	
18	木		18	月		18	月	
19	金		19	火		19	火	
20	土		20	水		20	水	
21	日		21	木		21	木	
22	月		22	金		22	金	
23	火		23	土	出願者数報告 出願〆切(15:00)▲	23	土	出願者数報告 出願〆切(11:00)▲
24	水		24	日	特例出願▽	24	日	特例出願▽
25	木		25	月		25	月	
26	金		26	火		26	火	
27	土		27	水	県外出願承認数報告	27	水	県外出願承認数報告
28	日		28	木		28	木	
3/1	月		3/1	金	特例措置出願〆切(正午)▲	3/1	金	特例措置出願〆切(正午)▲
2	火		2	土		2	土	
3	水	学力検査	3	日		3	日	
4	木		4	月	学力検査	4	月	学力検査
5	金		5	火		5	火	
6	土		6	水		6	水	
7	日		7	木		7	木	
8	月		8	金		8	金	
9	火		9	土		9	土	
10	水	合格発表(15:00)	10	日		10	日	
11	木		11	月	合格発表(15:00)	11	月	合格発表(15:00)
12	金		12	火	▼第二次募集出願受付	12	火	▼第二次募集出願受付
13	土		13	水		13	水	
14	日		14	木		14	木	
15	月		15	金		15	金	
16	火		16	土		16	土	
17	水		17	日	▲11:00 成績報告, 答案送付〆切	17	日	▲11:00 成績報告, 答案送付〆切
18	木		18	月	第二次学力検査等	18	月	第二次学力検査等
19	金		19	火		19	火	
20	土		20	水	(春分の日)	20	水	(春分の日)
21	日	(春分の日)	21	木		21	木	
22	月	(振替休日)	22	金		22	金	
23	火		23	土		23	土	
24	水		24	日		24	日	
25	木		25	月		25	月	
26	金		26	火		26	火	
27	土		27	水		27	水	
28	日		28	木		28	木	
29	月		29	金		29	金	
30	火		30	土		30	土	
31	水		31	日		31	日	

5 平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜日程（案）

平成22年度宮城県立高等学校入学者選抜に係る推薦入試面接等実施日、連携型中高一貫教育に関する入試（以下「連携型入試」という。）実施日、推薦入試合格発表日、連携型入試合格発表日、一般入試学力検査日及びその合格発表日については、下記のとおりとする。

記

推薦入試面接等実施日 連携型入試実施日	平成22年1月29日（金）
推薦入試合格発表日 連携型入試合格発表日	平成22年2月 5日（金）
一般入試学力検査日	平成22年3月 4日（木）
一般入試合格発表日	平成22年3月10日（水）

①内容

現行入学者選抜制度の検証及び論点整理

イ 現行公立高校入試制度に関する調査について

●調査票及び実施状況報告

ロ 推薦入試の在り方について

●推薦入試の成果及びこれまで指摘されている課題や意見の説明

<主な意見>

○推薦入試が一定の機能をはたしていることを踏まえる必要がある。

○中学校では校内選考に伴う困難が多く、また学校規模による違いも大きく、検討が必要である。

○推薦不合格だった場合に生徒が意欲を失うことがある。

○中学校ごとに校内選考を行っていることに疑問がある。選抜主体は中学なのか高校なのか考えるべきである。

○推薦されてくる受検生は一定の力がある。

○校長推薦をやめ自己推薦にだけでは解決しない。

○推薦の出願資格がはっきりしていないことが課題である。

ハ 一般入試の在り方について

●学校選択問題導入の成果、相関図表を用いた選抜の仕方等及びこれまで指摘されている課題や意見の説明

<主な意見>

○受検生も中学校でも選択問題についてあまり話題にならないし、特に選択問題を意識した学習はやっていない。

○選択問題によって教科毎の平均点に大きな差が出ることは、選抜資料として問題ではないか。

○すべて共通問題とすると差がつかず選抜資料として使いにくい。

ニ 選抜資料としての調査書の活用について

●5段階評定の分布状況、本県調査書の様式と活用状況及びこれまで指摘されている課題や意見の説明

<主な意見>

○「行動の記録」、観点別評価をもっと重視すべきである。

○マルAについては4つの分野を同列に扱う点、8%という枠があるという点で誰にマルA評価を付けるか難しい。

○県で一律の基準を示し該当者をマルAとする方式がいいのではないか。

○絶対評価の精度が不透明である。

○調査書の記載内容が十分活用されていないという印象がある。調査書を簡略化しA4判化できないか。

○生徒のよさをみる選抜資料として調査書の各項目とも重要である。

ホ 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について

●これまで指摘されている課題や意見及び入試の回数とそのメリット・デメリットについて説明

<主な意見>

○複線型入試を維持すべきである。

7 「中間まとめ」の骨子（案）

1 宮城県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題について

(1) 入学者選抜制度の変遷

- 昭和53年 専門学科のうち農業・水産学科の一部に推薦入試導入
⇒ 後継者育成
- 昭和60年～ 他の専門学科に推薦入試拡大
- 平成6年 普通科への推薦入試導入
⇒ 受検生の多様な個性等の評価，選抜方法の多様化や選抜尺度の多元化，受検機会の拡大
- 平成6年 一般入試における傾斜配点導入
⇒ 学校・学科の特色に応じた選抜
- 平成16年 推薦入試で口頭試問，英語面接，一般入試で学校選択問題導入
⇒ 学校・学科の特色に応じた選抜，受検生の多様な能力・適性の評価，選抜精度の向上
- 平成19年 中学校から推薦できる人数制限撤廃
⇒ 中学校の校内選考における課題の解消

(2) 現行入学者選抜制度の概要

- 現行制度＝受検生には推薦入試，一般入試，第二次募集の最大3回の受検機会
⇒ 受検生の進路選択幅の拡大，多様な能力・適性や個性等の評価
- 推薦入試＝中学校長の推薦書に基づき調査書等による審査
⇒ 志望動機の明確さ，適性，興味・関心，人物，受検生の多様な個性を重視
- 一般入試＝調査書及び学力検査の結果に基づく総合的な審査
⇒ 5教科の学力検査の結果だけでなく調査書により中学校生活3年間の成果を多面的・総合的に評価
- 第二次募集＝1名でも空き定員があった場合実施
⇒ 進学先未決定者の受検機会の確保

(3) 現行入学者選抜制度の課題

イ 推薦入試の在り方

- 中学校長推薦を要すること
⇒ 受検機会の差，校内選考の難しさ等
- 推薦合格者の割合が高いこと
⇒ 推薦入試本来の趣旨と現状とのずれ，推薦合格後の学習意欲低下等による中学校及び高校での影響等
- 選抜方法
⇒ 調査書の5段階評定のみが高く評価されている印象

3 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

(1) 改善に向けての基本的な考え方

- ①受検する立場の生徒にとってより公正かつ適正な入試
- ②中学校と高等学校の教育を円滑に繋ぐ入試
- ③学力の向上に繋がる入試

(2) 改善の方向性

イ 推薦入試の在り方

- 入試制度に関する調査結果などからも一定の成果は認められるが、様々な課題があることから、大幅な見直しが必要

ロ 一般入試の在り方

- 調査書点と学力検査点の総合評価という視点は維持しつつ、学校選択問題については更に継続検討
- 特色ある学校づくりという観点から選抜の在り方の検討が必要
- 受検生の目的意識の明確化に向けた検討が必要

ハ 選抜資料としての調査書の活用

- 受検生の特性を多面的にみる資料として重要であるが、評価の客観性、公平性、透明性をさらに高めるような検討が必要
- 選抜の資料としての有用性を高めつつ簡素化の視点からも改善が必要

ニ 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会

- 3回の受検機会を大枠として維持

ホ その他

- 調査書の様式など入試事務として改善できる部分については先行して実施

現行公立高校入試制度に関する調査の結果について

宮城県教育庁高校教育課

平成20年10月 実施

1. 調査の趣旨

第1回入学者選抜審議会の意見を踏まえ、入試を実施する高校側と生徒が受検する中学校側からの現行の高校入試制度に関する評価とその課題、制度改善の方向性に関する意見を集約し、今後の議論の参考とするため実施したもの。

2. 実施対象及び回収結果

- ① 県内すべての国公立中学校 225校 (回収数 224校)
- ② 県内すべての公立高校 85校 (回収数 84校, 田尻・田尻さくらは1校回答)

3. 実施期間

平成20年9月12日(金)～10月3日(金)

9/12(金) 調査用紙発送, 10/3(金) 調査用紙回収締切

4. 調査項目

- (1) 一般入試に関する評価と改善の方向性
- (2) 推薦入試に関する評価と改善の方向性
- (3) 第二次募集に関する評価と改善の方向性
- (4) 調査書の記載事項と評定の活用に関する評価と改善の方向性
- (5) 入試の実施時期と実施回数に関する評価と改善の方向性
- (6) 高校入試改善全体について

- | | |
|---|-------|
| 1. 現行公立高校入試制度に関する調査結果 (質問紙と中学校・高等学校の全体結果) | P 1 |
| 2. 同 (記述回答一覧) | P 1 0 |
| 3. 同 (中学校におけるQ10とQ10-2の回答結果の関係) | P 1 6 |
| (全高校及び全中学校におけるQ5とQ10の回答結果の関係) | |

現行公立高校入試制度に関する調査の結果について

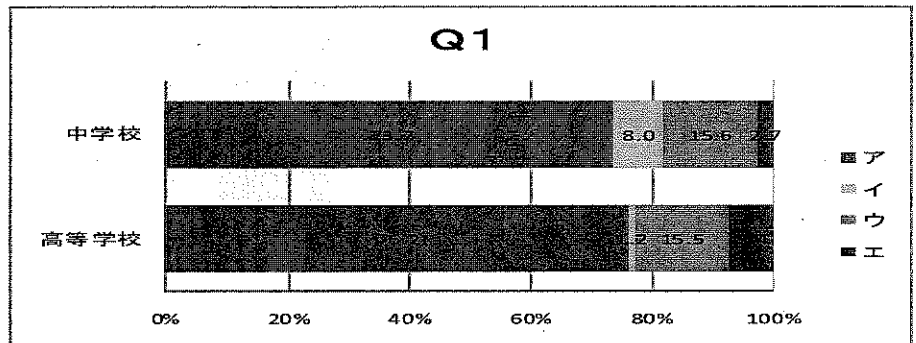
平成 20 年 10 月 集計

中学校：224 校中の%値，高等学校：84 校中の%値

1 一般入試について

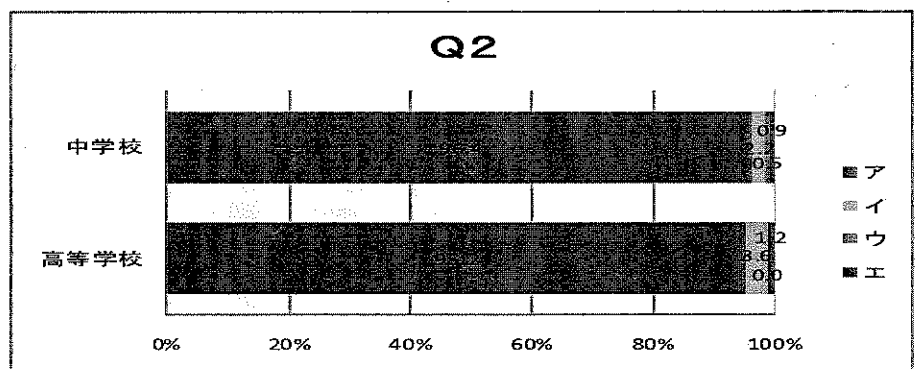
Q 1 各教科の学力検査問題の構成について、適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 現状の質・量でよい
- イ 量を減らし、思考力・表現力を問う
- ウ 基礎基本問題を中心として量を増やす
- エ その他



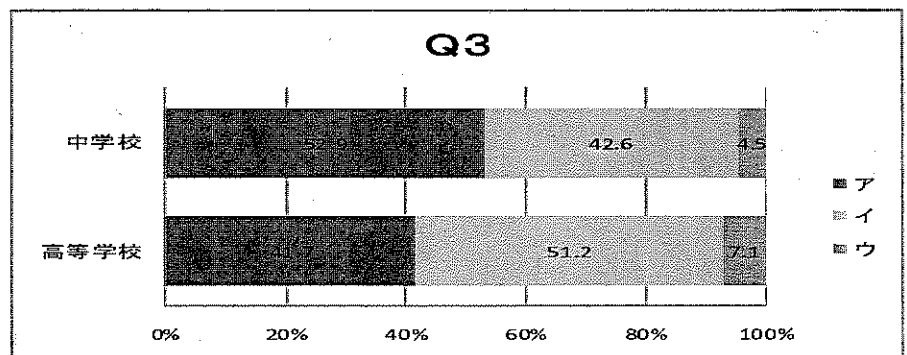
Q 2 1教科あたりの検査時間について、最も適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 50分（現状）
- イ 45分
- ウ 40分以下
- エ 55分以上



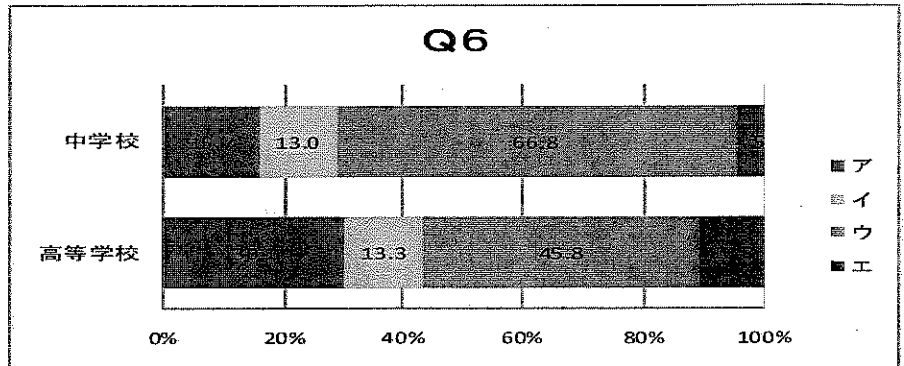
Q 3 数学と英語で現在実施している学校選択問題についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続して実施すべき
- イ 不要
- ウ 改善すべき



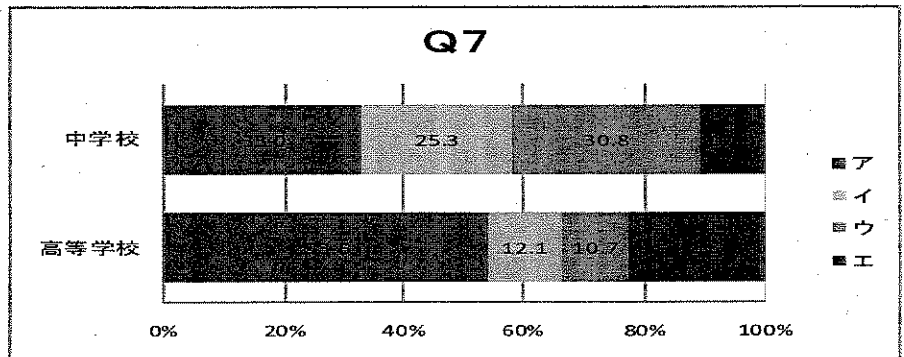
Q6 現行の推薦入試の中で、普通科の推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の30%以内が適当
- イ 10%程度まで減らすべき
- ウ 普通科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき



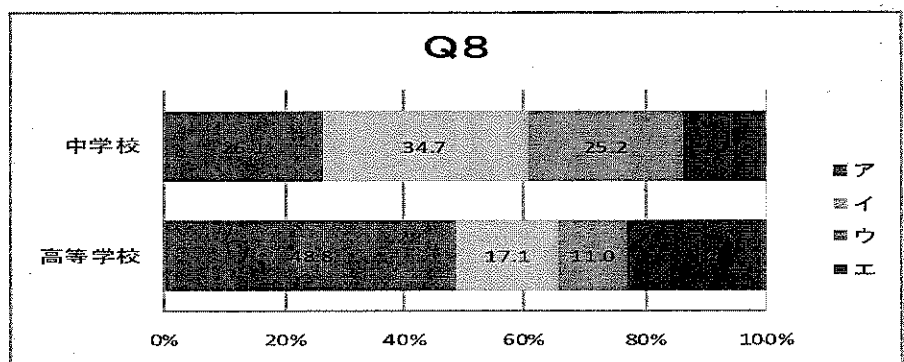
Q7 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科を除く専門学科並びに総合学科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の40%以内が適当
- イ 20%程度まで減らすべき
- ウ 専門学科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき



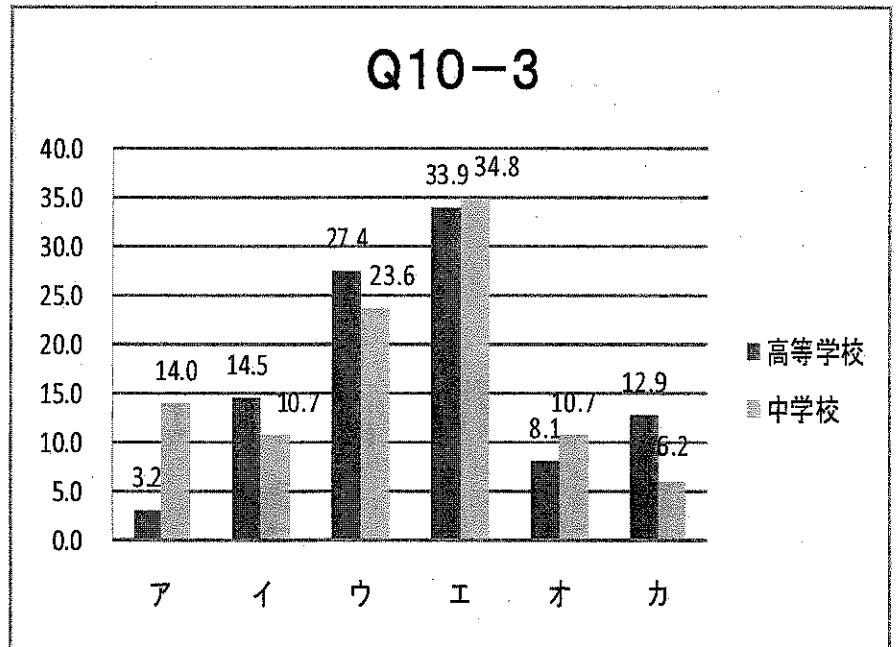
Q8 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の60%以内が適当
- イ 30%程度まで減らすべき
- ウ 体育・美術科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき



Q10-3 Q10で「ウ」と回答した方は、どのような改善の方向が適切と考えますか。次の中から2つ選んでください。

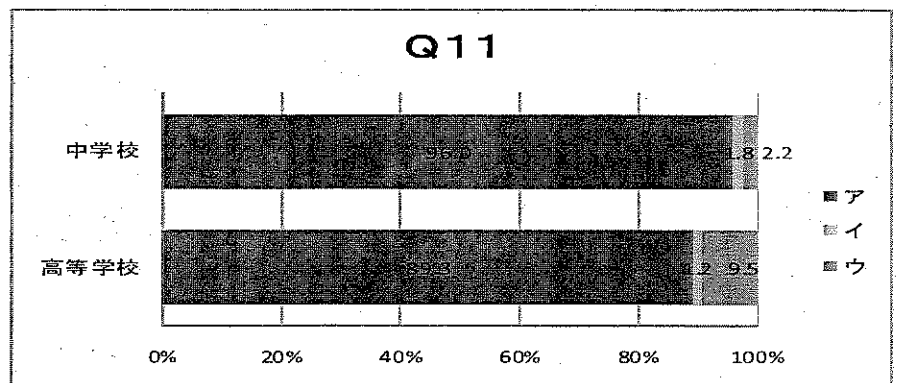
- ア 校長推薦を必要としない自己推薦方式
- イ 文化・運動部等で明確な実績のある者のみを推薦する方式
- ウ 推薦に加え3教科程度の学力検査を課す方式
- エ 現行の推薦入試の対象を専門学科のみに限定する
- オ 新たな特色のある選抜方式を導入する
- カ その他



3 第二次募集について

Q11 第二次募集は必要だと考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続すべき
- イ 廃止すべき
- ウ 改善すべき



Q11-2 Q11で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

Q13-2 Q13で「イ」の回答の場合、次のア～キのうち調査書の記載事項として特に改善が必要と考えるものはどれですか。(複数回答可)

また、そのうち()内の改善の方向はどれがよいか、①～③の中から選んでください。

ア～キの数値は、中高ともにQ13でイを回答した学校数に対する割合を示す。

①～③の数値も、中高ともにQ13でイを回答した学校数に対する割合を示す。

	中学校	高等学校
ア 観点別学習状況	11.1	14.5
①廃止	21.2	21.3
②簡略化	15.9	38.3
③詳述化	1.3	6.4
イ 各教科の評定	2.6	3.3
①廃止	2.0	0.0
②簡略化	6.6	8.5
③詳述化	0.0	10.6
ウ 選択教科の評定	21.0	11.9
①廃止	62.9	34.0
②簡略化	6.6	25.5
③詳述化	1.3	2.1
エ マルA特記事項	15.1	5.9
①廃止	23.8	6.4
②簡略化	24.5	2.1
③詳述化	2.0	14.9
オ 行動の記録	9.5	10.8
①廃止	4.6	0.0
②簡略化	23.2	12.8
③詳述化	4.6	31.9
カ 欠席状況	3.5	8.2
①廃止	2.0	0.0
②簡略化	8.6	4.3
③詳述化	1.3	23.4
キ その他	5.3	1.5

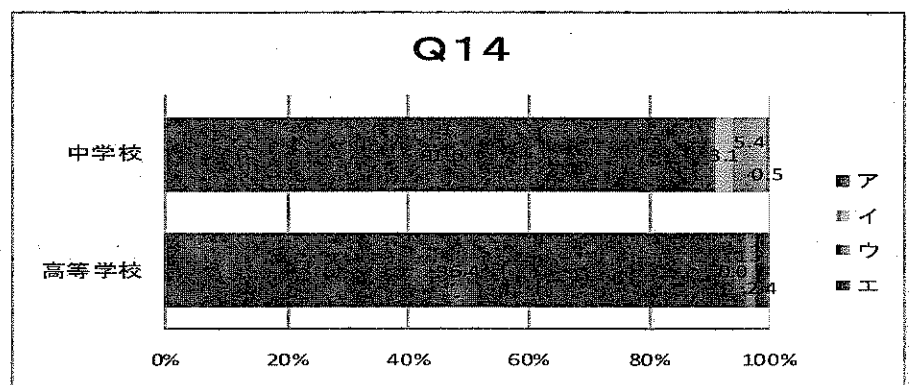
Q14 現在の調査書「評定」の活用の仕方をどのようにすればよいと考えますか。次の中から選んでください。

ア 1～3学年分(現行)

イ 3学年分のみ

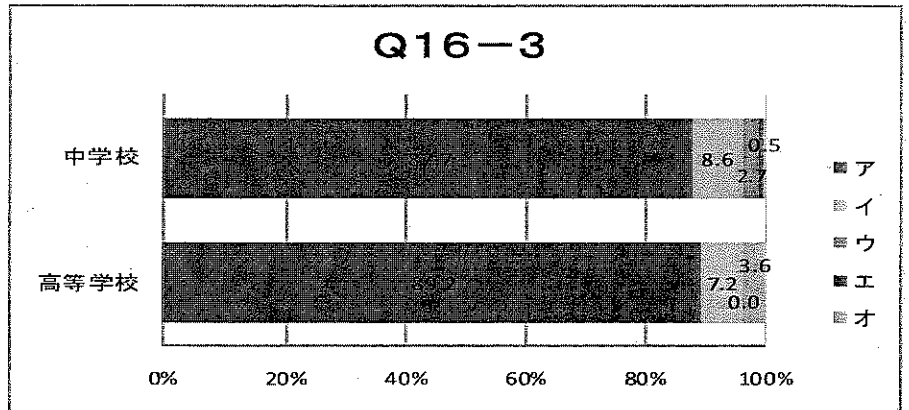
ウ 2, 3学年分のみ

エ その他



Q16-3 3回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

- ア 3月17～20日 (現行)
- イ 3月21～24日
- ウ 3月25～28日
- エ 3月29～31日
- オ その他



6 高校入試全般について

Q17 高校入試の改善にあたって、最も重視すべきことはどのような点だと考えますか。具体的に記述してください。

3 第二次募集について

Q11-2 Q11で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。 ウ 改善すべき

私立合格者の取扱について（2件）
隣接協定による他県の受検者にも応募資格を与える

Q12 第二次募集の選抜資料として何が適当だと思いますか。 オ その他

学力検査、面接など
各高校の判断に基づいたもの（3件）

4 調査書について

Q13-2 Q13で「イ改善すべき」の回答の場合、次のア～キのうち調査書の記載事項として特に改善が必要と考えるものはどれですか。（複数回答可）また、そのうち（ ）内の改善の方向はどれがよいか、①～③の中から選んでください。 キ その他

特別活動の記録の詳述化
特別活動の記録を簡略化
総合的な学習の時間の項目を廃止（8件）
指導要録のコピー
観点別学習状況の記載は、3学年分のみでよい
全体的に簡略化（2件）
その他の事項を廃止する（2件）
文章記述の簡略化（3件）
特別活動の記録で1・2年次も加えるべき
マルAに記入した内容は特別活動の記録では不要である
観点別学習状況はCも記載すべきである
出欠の記録中に遅刻・早退・欠課も含むべき

Q14 現在の調査書「評定」の活用の仕方をどのようにすればよいと考えますか。 エ その他

3年生の評定重視
調査書のサイズを、記入事項の精選を図り、A4版に

5 入試の実施時期と実施回数について

Q16 3回の入試を行うとした場合、1回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。 エ その他

1月下旬
2月中旬（2件）

Q16-2 2回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。 エ その他

3月10日前後

Q16-3 3回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。 オ その他

3月上旬
3月12～15日ごろ

6 高校入試全般について

Q17 高校入試の改善にあたって、最も重視すべきことはどのような点だと考えますか。具体的に記述してください。

基礎・基本を重視した問題作成を（3件）
一般入試でも面接実施を（2件）
PISA型読解力を問う問題を大幅に増やす
推薦入試でも学力検査実施を（5件）
推薦入試は希望者全員を高校側で選抜する
推薦入試の廃止（33件）
学力向上の観点から、推薦入試の時期が早い（3件）
推薦入試の割合を減らす（3件）
中学校長推薦入試を自己推薦入試に（4件）
推薦入試は残す（2件）
推薦入試における推薦できる人数枠を設ける
合格基準を明確にすべき（18件）
得点だけでなく、中学校時の活躍や人物評価を重視（6件）
生徒のニーズに応じた多様な選抜基準による入試を。
高校の特色が出せるような選抜方法を。
2・3年の評定だけを参考に

1 一般入試について

Q1 各教科の学力検査問題の構成について エ その他

基礎・基本問題を重視する
現状の量で、思考力・表現力を問う
各校独自作成問題を認める
基礎基本問題を中心として量を減

Q3-2 Q3で「ウ 改善すべき」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

正答率が低く、点差がつきにくいなど（3件）
大問7問の中から学校が5問を選択
基礎基本問題の部分を選択に
ABはすべて別内容に

2 推薦入試について

Q9 推薦入試の選考資料として、調査書・面接・小論文・作文、実技等に加えるべきものがあるとすればどのようなものがあると思いますか。御意見を記入してください。

学力検査または基礎学力テストの実施（15件）
口頭試問の実施（4件）
調査書をもっと詳細な記述に見直し
部活動における具体的な戦績や具体的な活動記録
学習成果をみる手立て
自己PR（自己推薦書）（2件）

Q10-2 Q10の回答理由にあてはまるものを次の中から選んでください。 ケ その他

<継続>
複数回受検の機会がある
推薦入学者の学業生活が優良である
基礎力育成の方法があれば継続する
<改善・廃止>
中学校間の差による不公平感、不平等感があるなど（4件）
推薦入学の定員半減をして意欲のある生徒を選抜
推薦の基準を明確にすべき
善行が周囲から推薦目当ての行動とみられるなど
成績不振者・不登校生徒の受検手段とされてる
専門学科についてのみ
社会人推薦についてのみ
高校の負担が大きい

Q10-3 Q10で「ウ」と回答した方は、どのような改善の方向が適切と考えますか。 カ その他

普通科、総合学科は推薦廃止のうえ推薦割合を大幅に減（2件）
各校独自の推薦基準を公開
一般入試において、中学校の推薦書、調査書、面接等によつてのみの選抜をする人数を設定
学校独自の学力検査・適性検査問題を作成、実施
学力検査は前期で実施し、後期で推薦入試を実施
社会人推薦に限定

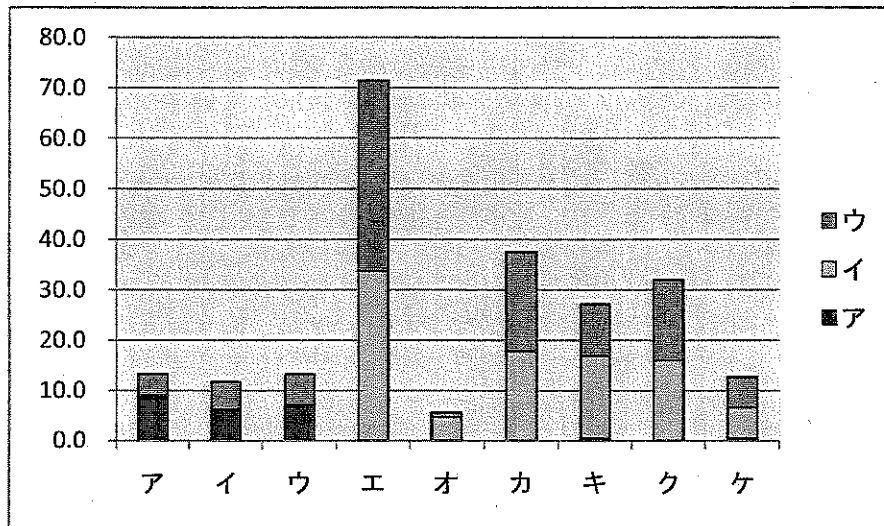
3 第二次募集について

Q11-2 Q11で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。 ウ 改善すべき

定員に満たなくても学校の状況に応じて実施しないことができるようにする（2件）
一般、推薦入試と合わせて、選抜（受検）機会の多元化の仕組みをより改善する
学力検査をなくし、一次募集の点数を以て選抜資料とする
高校入試の受検機会の複数化を保障するという前提で、新たな高校入試の枠組みづくりを検討すべき
実施することが望ましいのであれば、実施時期を改善
同一校同一学科の再受検を不可とする

中学校におけるQ10とQ10-2の回答の関係

%		Q10-2								
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
Q10	ア	8.5	6.1	6.6	—	—	—	0.5	—	0.5
	イ	0.5	—	0.5	—	4.7	17.8	16.4	16.0	6.1
	ウ	4.2	5.6	6.1	—	0.9	19.7	10.3	16.0	6.1



2 推薦入試について

Q10 現行の推薦入試制度全体についてどのように考えますか。次の中から選んでください

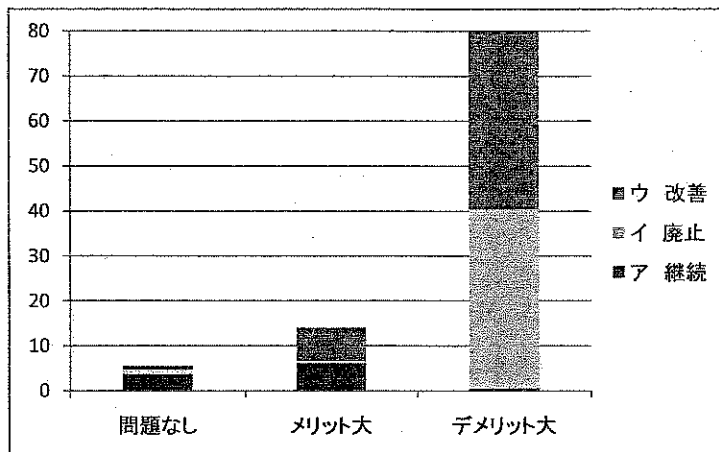
- ア 継続すべき
- イ 廃止すべき
- ウ 改善すべき

Q10-2 Q10の回答にあてはまるものを次の中から選んでください。(複数回答可)

- ア 中学校生活を評価できるから
- イ 意欲の高い生徒が選抜されるから
- ウ ペーパーテスト以外の力を評価できるから
- エ 推薦の基準が不明瞭であるから
- オ 中学校の授業時間確保の障害になるから
- カ 事務手続が非常に煩雑であるから
- キ 早期合格の手段となるから
- ク 学力向上の障害となるから
- ケ その他

		Q5		
		ア	イ	ウ
Q10	ア 継続	3.8	6.1	0.5
	イ 廃止	0.9	0.5	39.9
	ウ 改善	0.9	7.5	39.9

「Q5 現行の推薦入試についてどう考えるか」と
「Q10 推薦入試制度をどう考えるか」の関係



		Q5		
		ア	イ	ウ
Q10	ア 継続	15.7	13.3	3.6
	イ 廃止	0	2.4	14.5
	ウ 改善	2.4	13.3	34.9

「Q5 現行の推薦入試についてどう考えるか」と
「Q10 推薦入試制度をどう考えるか」の関係

